

□ 花葉会賞受賞記念講演

高等学校・農業教育における「草花園芸・草花」の指導の変遷、及び「ガーデンシティ イン ふかや」の指導

村川 文彦



講演中の村川氏

農業の近代化推進のために、「農業基本法」が制定されたのは昭和36年である。農業後継者の育成と確保が大きな問題としてクローズアップされた時代に、埼玉県立熊谷農業高等学校の「草花園芸」担当教員としてスタートした。

草花園芸は守備範囲が広く、①造園部門、②切花、球根、花壇苗生産部門、③鉢花、観葉植物、洋ラン部門に分かれ、私は③を担当。次の4つをテーマとした。1基礎的・基本的内容の重視、2実験・実習の重視、3農業後継者の育成、4学校農業クラブ活動の推進。

当初、生徒は野菜が中心の農家の長男が7割、だが花を中心とした経営を教えた。「シクラメン中心の輪作体系の確立」の中で、シクラメンについての基礎的・基本的な知識と技術を習得し、実験・実習のプロジェクト学習を中心にすえて学習を展開。1年では基礎を、2年では栽培を、3年では企業の経営を目標とした。そして農業後継者の育成のために、寝食をともにした宿泊実習の実践し、全人的な教育を行った。

昭和44年、生徒だけでなく自分自身も学ぶために、千葉大学園芸学部へ再度入り、農業技術や経営能力の技術革新等について、1年間研修を重ねた。

なお、学校農業クラブ活動は草花園芸の専攻学習を活発化して、「指導性を高める、社会性を高める、科学性を高める」ことを目的にプロジェクト学習を推進。教育効果を高めることをねらいとした。昭和54年には学校農業クラブ全国大会を埼玉県熊谷市で開催した。

高等学校・農業教育における「草花園芸・草花」の指導の変遷

昭和23年度実施の学習指導要領は新制高校における農業教育の再建期(昭23～26年度)であった。その後、7回にわたって学習指導要領が出され、目標も内容も変遷していった。昭和38～47年度は高等学校農業教育の近代化・拡充期、48～56年度は農業教育の近代化・集約期、57年～平成5年度は再生期、平成6～15年度は再編期であった。そして16～25年度は拡充・発展期となるだろう。

高等学校教育の目標は、自ら学び・自ら考え、生きる力を育成して人格を完成させること。そして専門性の基礎・基本の確実な習得で社会の形成者を育成して、農業各分野の変化へ対応することである。

「ガーデンシティ イン ふかや」の指導

わが国は活力ある国家として発展し、科学技術創造立国・文化立国等を目指している。また、「都市と農山漁村の共生・対流推進会議」が発足。これらを受けて、深谷市では「花サミット・花フェスタ」の目的を、先進的な地域づくりに取り組んでいる花づくりの市町村が一堂に会して情報交換をし、交流を深めてゆくこととした。深谷市役所・ガーデニング推進室に事務局を設置し、推進母体とした。

①Beautiful Life ②Beautiful Community ③Beautiful Country、この三つの美を実現するためのまちづくりの指針とする。この指針を基に、深谷市から全国へ、そして世界へ発信していくものである。

2004年10月15～17日、第1回ふかや花フェスタ(第4回全国ガーデニングサミット in ふかや)を開催。以降毎年4月に行われている。そして2009年は名前を変え、「花とみどりの王国」と題して行われる予定である。

キーワードは「愛・創・育」。すなわち、愛する:花を愛し、緑を愛し、「ふかや」を愛する心を育む。創る:美しくなければ街ではないをモットーに、花と緑のあふれるまちを創る。育む:現存する自然緑地・生産緑地を守り育み、自然と共存するまちづくりの推進である。里親制度の導入、職員ボランティア活動の推進、小中高等学校等「ふかや花いっぱい運動」の推進、園芸療法の目的別推進、オープンガーデンなどの事業が展開されている。(レジュメより抜粋 文筆:編集部)